

景観づくりの考え方

● 地域の魅力ある景観を残すために

谷間の地形的な特徴を生かす

- ・ 傾斜地の特徴を生かし、現況の地形に合わせた最小限の敷地造成とする。



ふるさとの景観を保全する

- ・ 田畑、柿木、雑木林など里山の風景を残し、黒川地区に合わせ建物を小規模にすることにより、自然と調和した日本のふるさと景観を保全する。



地域に残る景観資源を大切に

- ・ 地域の特徴的な農家建築、土蔵や石積みなどの景観資源を大切に



● 緑豊かなやさしい環境をつくるために

郷土の樹種により季節感を保つ

- ・ 地域になじんだ樹種を植栽することにより、季節感を感じる懐かしいふるさとの緑を保全する。



植栽により集落周辺のみどりと連続させる

- ・ 建物と建物の間や、敷地の周りに緑を配置することによって、建物の圧迫感を和らげ周辺の緑とのつながりをつくり出す。



人々の暮しが感じられる空間を大切に

- ・ 農地や民家など生活の営みが感じられる要素を大切にすることによって、歴史性・郷土性豊かな景観を継承・創造する。

